

(別添様式4)

## 令和7年度 学校評価実施報告書

学校名 ( 松尾中 学校)

<b>教育目標</b> 立志 (よりよい生き方、地域・社会への貢献を考え、自ら学びに向かう力の育成) 自律 (状況や自己認識から自分がどうするべきかを考え、行動する力の育成) 協創 (多様性を認識・尊重し、対等な立場で課題の解決や新たな価値の創造に向けて粘り強く探究する力の育成)	
<b>年度末の最終評価</b>	
自 己 評 価	<b>教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し</b> ・松尾中版キャリアアップシートの活用で、目的・目標を意識し、なりたい自分を問いかけ、振り返りを活かすよう意識づけ、向上心を育むことに繋げることはできた。長期的な展望を思い描き、それを自分の周囲のことへと発展させるビジョン形成できるよう、キャリア教育の充実を図る必要がある。 ・ペア学習やグループ学習において、自己指導力は向上している。個別学習に還元し、主体的に取り組むことはできるが、自ら課題を設定することや家庭学習の習慣化の定着に課題がある。授業と家庭学習に連動性をもたせるよう、授業改善に努めたい。 ・教科授業や総合的な学習の時間などでの表現の場において協働性が発揮できており、他者理解を通して自己理解を深め、自己肯定感の高まりも見られた。 ・ICTを活用することで多種多様な学びにつながり、教科横断的な学習にも効果が見られる。さらに効果的な教育活動を実践したい。また、随時情報モラル教育も取り入れ、保護者とともに使用方法などについて自己管理意識の向上を図りたい。 ・アンケートの活用で、生活習慣の改善に効果があり、健康教育とともに、朝食接種や睡眠時間確保の重要性について講演を活用するなどして啓発活動を行う。 ・いじめ防止対策として、継続的にいじめアンケートを行い、いじめを見逃さない体制の強化を図る。
学 校 関 係 者 評 価	<b>学校関係者による意見・支援策</b> ・小学校との連携が必要になってきている。総合的な学習の時間などでも9年間を意識した教育活動を行ってほしい。 ・地域のことも子供たちが、大人と一緒に活動できる素地を作っていけるよう取り組んでいく必要があると思う。難しいこともあるが、少しでもよいので繋がりを途切れさせることなくやってもらえたらと思う。

### 学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	令和7年10月23日	学校運営協議会
最終評価	令和8年2月26日	学校運営協議会

(1)「確かな学力」の育成に向けて 『学力向上プラン』

重点目標

- ・「わかる」「できる」「楽しめる」自ら取り組みたくなる授業の実践
- ・主体的・対話的で深い学びを通じた協働学習の実践と研究
- ・個に応じた家庭学習定着への実践

具体的な取組

～知識・技能の確かな定着からその活用と主体的な「学び」の創造へ～

① 課題解決型への授業改善

- ・「問い」の設定による「自ら学び、自ら律する」力の育成

基礎基本の定着とそれを活用した協働学習への授業構成を構築する。

それにより

1 時間管理（有限であることを認識する）

2 見通し力（逆算力も身につけさせる）

3 学習習慣（計画性を持って取り組ませる）

4 自己肯定感（達成感や成就感を味わわせる）

5 能動的学習力（自ら取り組むことを、判断・決定する・させる）の育成を目指す。

- ・ PDCA サイクルの定着【特に「C」（振り返り）「A」（次への繋がり）の重点化】

- ・ 指導と評価の一体化のさらなる研究のための教科会・研修会の充実

- ・ 全国学力・学習状況調査、学習確認プログラムの結果分析や指導方法の工夫と改善

② ICT（デジタルドリルや動画授業、東書 web 等）を活用した学習の実践と研究

- ・ 基礎・基本の徹底する反復学習（生徒の取捨選択）

- ・ 支援を要する生徒への活用(デジタルドリルの有効活用)

- ・ 個に応じた課題への取組

- ・ さまざまな教育活動での主体的な活用の研究

（自己の学びを言語化、視覚化し蓄積すると同時に他者との協働に活用）

③ 協働学習と個別最適な学びを活用した授業研究

- ・ 授業と家庭学習の連携の構築

家庭学習習慣化におけ、短期で取り組む課題や中・長期的な課題の設定

自己決定した課題に取り組む教科指導の研究

- ・ キャリア学習を中心に据え、総合的な学習を軸とした教科横断的な学習の推進

つけたい力から逆算した目標設定と実践の研究

(取組結果を検証する) 各種指標

○全国学力・学習状況調査 ○学習確認プログラム ○学校評価アンケート

○生徒指導の三機能チェックシート【授業場面】 ○クラスマネージメント

中間評価

各種指標結果

○全国学力・学習状況調査

- ・ 3年生 全国平均正答率（全国比）をかなり上回る結果となった。

○ジョイントプログラム・学習確認プログラム

- ・ 1年生 全市平均をかなり上回る結果であった。
- ・ 2年生 全市平均を上回る結果であった。
- ・ 3年生 教科によってばらつきはあるが、全体としては全市平均をやや上回る結果であった。

○学校評価アンケート

「よくできている」「大体できている」と答えている割合

「授業はわかりやすく、基礎・基本的な学習を理解し、学力が身についていると思いますか。」

1年生：91%、2年生88%、3年生：92%、保護者：72%

「これまでの授業で、課題解決に向け、自分で考え、自分から取り組みましたか。」

1年生：86%、2年生：83%、3年生：92%、保護者：72%

「授業での話し合い活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。」

1年生：87%、2年生：85%、3年生：92%、保護者：77%

「見通しをもって、計画的に進めたり、改善を図ったりしていますか。」

1年生：76%、2年生：70%、3年生：78%、保護者：58%

「ICT（タブレット端末など）を授業や自学で活用できていますか。」

1年生：91%、2年生：79%、3年生：95%、保護者：71%

○生徒指導の三機能チェックシート【授業場面】

一人一人の生徒が主体的に学べるように、個に応じた支援を行っている。 教員40%

ペア学習やグループ学習を取り入れて、一人一人が活躍する場面を作っている。 教員74%

お互いに意見交流し合ったり、教え合ったりするペア学習やグループ学習を取り入れている。

教員77%

○クラスマネジメント

領域ごとにスコア100を超えている場合は良好

- ・ クラスのまとまり
- ・ クラスのやすらぎ
- ・ 友達とのつながり

(全クラススコア100を全ての領域で超えている)

自己評価

分析 (成果と課題)

○ジョイントプログラム・学習確認プログラムから

【1年生】国語では、複数の条件がある問題になると、後半で示される条件や異なる頁に載っている情報に触れずに解答しているようである。具体性に欠ける解答や条件を満たさない解答も少なくないため、俯瞰的に課題を捉えて答えることに課題がみられた。数学では、全ての単元・領域・観点で全市平均よりも高い正答率であった。高い正答率をキープできるように、基本的な知識を小テストなどで定着させて、思考・判断・表現の力を伸ばせるように発展的な課題にも取り組ませていきたい。

【2年生】国語では、「目的に応じて情報を得て内容を解釈」する問題の正答率が低い。「自分の好きな情報」を集める力はあるが、「目的に応じた」など条件がつくと厳しくなる。古典に関しては「歴史的仮名遣い」と「現代語訳」を混同しないように、引き続き指導が必要。社会では、「振り返り」のみ取り組んでいたが、各自予習することを習慣づけるよう継続指導を行

なったことが、全体的な学力の底上げにつながったと考えられる。数学では、全体的に平均を上回る結果となったが、関数領域においては、比例、反比例の表、式、グラフ読み取る所が弱いといえる。それらの練習問題を反復して実施していく。理科では、Basic 1、2の結果と比較してもD層に変化がみられていない。A、B層を安定させることと並行しながら、D層の力をつけていくような工夫が必要。英語では、聞き取る力や読み取る力が着実に身についている一方、自己表現の書く問題については課題があることがわかった。帯活動である Small Talk を継続的に行っていくことで、自己表現する力の育成を目指したい。

【3年生】国語では、文章を読み取る問題について、内容を捉えたり、そこから考えを広げたりする問題については、正答率が高かった。しかし、全体の構成や、論理の展開を捉える問題では正答率が下がっているため、文章全体を捉える問題に課題が残る。社会では、地理的分野において正答率が全市よりも低く、歴史的な分野は幕末から明治維新と産業革命について正答率が低く、知識の定着が曖昧な部分が見られた。数学では、「活用問題・記述問題」が全市平均よりも高い結果となった。このことは、単元末レポートテストの効果と考えられる。理科では、2年生で学習したものはおおむねできているが、1年生の学習内容で正答率が低くなっていた。特に、科学的用語や技能の内容について、定着できていないところが多くみられ、D層が多くなっていることにつながっていると考えられる。英語では、すべての学習で、自己表現活動を行ってきたので、「自己表現」の正答率が高かった。一方で、無回答の生徒が22%存在したのは、普段の授業で翻訳に頼りきってしまっている生徒も多いからと分析できる。

#### ○学校評価アンケートから

授業においては、生徒が学習を理解し、学力が身についていると感じている事と、生徒が課題解決に向けて、主体的に自ら取り組んでいる事が伺える。また、自分の考えを深める為に、友達との話し合い活動や友達と協力する力が身につけている事がわかる。課題としては、先の事を計画的に進められていないところがある。生徒と保護者の回答にも差がある。自ら取り組む力、協働的な力など生徒たちが出来ていると答えているのに対し、保護者の認識では低いのがわかる。これは、保護者への視覚的な発信や細やかな連絡、授業や評価方法などの説明が少し足りないのではないかと感じる。

#### 分析を踏まえた取組の改善

- ・GIGA 端末を活用した個の学びと協働学習や家庭学習との連動による教科学習の定着を図る。
- ・主体的に取り組む態度を育成するために、探究的な課題設定を検討し、授業内でペア学習やグループ学習の時間を多く取り、目標設定や振り返りの時間を設けて展開してきた。個々の生徒間で学習の定着に差が生じているのが現状なので、教科書を熟読することや、基礎基本の用語を活用できるようにするなど、学習の定着を図る工夫を授業内で行う必要があると思われる。
- ・基礎学力の定着をはかる授業と、探究的な課題に取り組み、思考力を高める授業の双方をバランスよく取り入れるようにしていくべきであると考え。
- ・研修会や教科会で、授業展開や評価方法などの意見交換をしながら、授業で実践し、適宜保護者に発信していくようにする。

#### (最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

○学習確認プログラム ○学校評価アンケート ○生徒指導の三機能チェックシート【授業場面】

学校関係者評価	<p><b>学校関係者による意見・支援策</b></p> <p>各種指標による学校評価アンケートの分析結果を見ていると、生徒と保護者の%に開きがある。生徒は学年ごとに指標が出ているので、保護者も学年ごとにデータが出れば、一段と分析が出来るのではないかと。校区内の小学校による算数（数学）等の取り組みが熱心であり、小中連携に生きてきている。</p>
---------	---

最終評価

自己評価	<p><b>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</b></p> <p>○学習確認プログラム 全学年 10月実施分</p> <p>1年生 教科によってばらつきはあるものの、全体としては全市平均をやや上回る結果であった。</p> <p>2年生 教科によってばらつきはあるものの、全体としてはほぼ全市平均と同じであった。</p> <p>3年生 全市平均をかなり上回る結果であった。</p> <p>○学校評価アンケート</p> <p>「よくできている」「大体できている」と答えている割合</p> <p>「授業はわかりやすく、基礎・基本的な学習を理解し、学力が身についていると思いますか。」</p> <p>1年生：86%、2年生81%、3年生：89%、保護者71%</p> <p>「これまでの授業で、課題解決に向け、自分で考え、自分から取り組みましたか。」</p> <p>1年生：81%、2年生：78%、3年生：90%、保護者72%</p> <p>「授業での話し合い活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。」</p> <p>1年生：88%、2年生：86%、3年生：91%、保護者78%</p> <p>「見通しをもって、計画的に進めたり、改善を図ったりしていますか。」</p> <p>1年生：74%、2年生：66%、3年生：84%、保護者57%</p> <p>「ICT（タブレット端末など）を授業や自学で活用できていますか。」</p> <p>1年生：90%、2年生：89%、3年生：93%、保護者77%</p> <p>○生徒指導の三機能チェックシート「よくしている」と答えた割合</p> <p>一人一人の生徒が主体的に学べるように、個に応じた支援を行っている。</p> <p>教員 よくしている 40.7% 時々している 55.6%</p> <p>ペア学習やグループ学習を取り入れて、一人一人が活躍する場面を作っている。</p> <p>教員 よくしている 74.1% 時々している 22.2%</p> <p>お互いに意見交流し合ったり、教え合ったりするペア学習やグループ学習を取り入れている。</p> <p>教員 よくしている 77.8% 時々している 18.5%</p> <p><b>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</b></p> <p>○学習確認プログラムについては、全市平均を大きく上回っている教科もたくさんある。学力が定着している教科がある。一方で、全市平均よりもマイナス、もしくは、プラスであっても前回の結果と比較すると、C・D層が増加してしまった教科もある。7月と12月に実施したアセス・アンケートでは、「学習適応感」の項目が低いという傾向が見られた。この結果からは、生徒が落ち着いているという状況に甘んじて、教員の授業改善がなされていないという見方もできる。生徒たちの主体的で、対話的で、深い学びの実現に向けて、それぞれの教員の授業改善が必要となる。</p>
------	--

	<p>○個に応じた支援については、「よくしている」が40%、「時々している」が55.6%の教員が回答しており、生徒一人一人に対する個別支援が一定の成果を上げようとしていることが分かり、生徒が主体的に学べる環境が整いつつあることにつながる。また、ペア学習やグループ学習の導入、意見交流や教え合いについても、70%以上の教員が「よくしている」と回答し、積極的に取り入れており、生徒が活躍する場面や学び合いの取り組みが進み、生徒同士の協力やコミュニケーションが促進されていることが期待される。</p>
	<p><b>分析を踏まえた取組の改善</b></p> <p>○生徒同士が協力して学ぶことや理解を深めたり、コミュニケーション能力を向上させたりする効果を得るために、協働学習を取り入れる。</p> <p>個に応じた学習を進め生徒自身が自分の学習スタイル（視覚、聴覚、体感など）を理解することと、教師は多様な学習スタイルに対応するため、視覚的資料、音声資料、実践的な活動などを取り入れていけるようにする。また、生徒が自分で学習計画を立て、時間を管理する能力も身に付けさせることが必要である。</p> <p>総合的な学習の時間を利用した、探究活動やグループワークを増やし、生徒が自ら考え、取り組む機会を提供すること。また、成功体験を積むことで自信を持たせることも重要である。</p> <p>教員が個別支援やペア学習、グループ学習の効果的な方法を学べる研修を定期的実施し、教員同士で成功事例を共有し、互いに学び合う機会を増やすことも重要である。</p> <p>生徒の主体性を引き立たせるために、授業設計や生徒の意見を取入れ、自ら課題を設定し、解決に向けて取り組む探究活動を活性化させていかなければならない。</p> <p>研修会や教科会（学力向上委員会）を積極的に設けることで、教員の授業改善を促す必要がある。</p> <p>○生徒の主体性を引き立たせるために、授業設計や生徒の意見を取入れ、自ら課題を設定し、解決に向けて取り組む探究活動を活性化させていかなければならない。</p>
<p>学校関係者評価</p>	<p><b>学校関係者による意見・支援策</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学生から習慣化していることの継続には小中連携が欠かせないと思う。</li> <li>・学年が上がるにつれて段階的に取り組みを行うことが大切なのではないか。</li> <li>・大人でも習慣化は難しく、保護者の意識づけも必要だと思われる。</li> </ul>

(2)「豊かな心」の育成に向けて

<p><b>重点目標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自らを律し、視野広く物事を考え、社会性を身につける生徒の育成</li> <li>・多様性を尊重し、いじめや差別・偏見を許さない生徒の育成</li> <li>・地域や社会に貢献する生徒の育成</li> </ul>
<p><b>具体的な取組</b></p> <p>小中一貫教育目的「未来社会の中でよりよく生きていける力の育成」の実現のため、取組を推進する。</p> <p>① 生徒行動目標「人・時・学を大切にす生徒になろう」をベースに、その行動規範に則った「生徒指導の三機能」の取組を行い、<u>生徒の自尊感情や自己有用感、規範意識の向上を目指す。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・月ごとに、自己認識時間（目標→実行→振り返り→次の目標設定）の設定</li> </ul>

<p>・情報モラルを身につけた、情報化社会における自己指導力の育成</p> <p>② 周囲の人（友達・親・地域・教職員）への感謝の気持ちや、自尊感情・自己有用感（肯定感）、社会性の向上につなげるために、個人・学年・部活動等を単位とした、ボランティア活動の取組を推進する。</p> <p>③ 道徳・人権学習を充実させ、<u>いじめや差別・偏見を許さない生徒の育成</u>をする。 ・SNS等による誹謗中傷に対する自己判断力の育成</p> <p>④ <u>多様性を尊重し、自他を大切にする環境の中で、挑戦する生徒と支える生徒を育成</u>する。 ・アセスメントシートやアート対話の活用</p> <p>⑤ 「自ら学ぶ力（探究のプロセス）」と「自ら律する力（自律プロセス）」を高める教育活動の研究を推進し、将来展望を幅広く抱ける力を育成する。 ・<u>チャレンジ体験や華道体験といった体験活動を充実させたり、出前授業などで視野を広げる。</u></p> <p>⑥ 生徒会活動、部活動、学年・学校行事を通して、達成感や充実感を味わえるよう生徒の自治的能力の伸長を目指す。（非認知能力の醸成）</p>
<p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <p>○学校評価アンケート ○クラスマネージメント ○教育相談アンケート</p>

中間評価

<p><b>各種指標結果</b></p> <p>○学校評価アンケート</p> <p>「よくできている」「大体できている」と答えている割合</p> <p>「自分には、よいところがあると思いますか。」</p> <p>1年生：74%、2年生：69%、3年生：79%、保護者：99%</p> <p>「学校行事・生徒会活動・部活動等に積極的に取り組み、充実感を感じていますか。」</p> <p>1年生：93%、2年生：88%、3年生：93%、保護者：84%</p> <p>「人の嫌がることや悪口を言わず、困っている人を気遣うことができますか。」</p> <p>1年生：90%、2年生：89%、3年生：95%、保護者：95%</p> <p>「学校の決まりや公共のマナーを守れていますか。」</p> <p>1年生：95%、2年生：95%、3年生：93%、保護者：97%</p> <p>「地域や社会をよりよくするために、できることやすべきことを考えていますか。」</p> <p>1年生：73%、2年生：60%、3年生：69%、保護者：71%</p> <p>○クラスマネージメント</p> <p>領域ごとにスコア100を超えている場合は良好</p> <p>・クラスのまとまり ・クラスのやすらぎ ・友達とのつながり</p> <p>(全クラススコア100を全ての領域で超えている)</p> <p>○教育相談アンケート</p> <p>生徒全員が真摯に向き合い、思いを告げる機会の一つとなった</p>
<p>自己評</p> <p><b>分析（成果と課題）</b></p> <p>○学校評価アンケートから</p> <p>学校行事や生徒会活動、部活動を通して、学校生活に充実感を感じている。規範意識は非常に</p>

<p>価</p> <p>学校関係者評価</p>	<p>高く、他者を思いやる生徒が多い。</p> <p>その反面、地域や社会の事まで視野が広がっておらず、学校という小さい社会で生活している様子が伺える。</p> <p>生徒の自己肯定感の割合に比べ、保護者による子どもの自己肯定感が高く、親が子どもの長所に注目し、そこを評価できている。成長期の子どもにとって、一番身近な存在の親が良いところを見つけて、認めている事は自信にもつながり、成長過程で大きな影響を与えていると思われる。</p> <p>○教育相談アンケートから</p> <p>年に二度（5月・10月）実施している教育相談アンケートを通して、自身の置かれた状況を客観的にとらえると共に、学習や部活動、友人関係や進路展望などを自己分析することができている。</p> <p>また、アンケート結果を基に担任と個別相談を実施することで、生徒一人ひとりの状況を把握し、支援体制の確立と充実を図っている。</p>
	<p><b>分析を踏まえた取組の改善</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・親とは違い、生徒の自己肯定感や自己有用感が低いので、そこを上げていくような教育活動の推進や、自分が必要とされるような取組、地域や社会に貢献できるような取組が必要であり、保育実習やボランティア活動を積極的に取り入れる必要がある。</li> <li>・地域や社会に目を向ける機会を授業や活動で与え、日常の中で提案し、学校の先輩や地域の方々と共に歩む教育活動を推進し、社会性を育む必要がある。</li> <li>・教育相談アンケートに関しては今後も実施し、有効に活用していきたい。現在、個別相談を行うにあたって、記名式のアンケートとして実施しているが、より本音に近い思いをくみ取るためには、学校評価やクラスマネージメント、いじめアンケート等と情報をリンクさせながら、総合的に生徒の状況を捉えていく必要があると考える。</li> </ul>
	<p><b>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</b></p> <p>○学校評価アンケート ○クラスマネージメント</p>
<p>学校関係者評価</p>	<p><b>学校関係者による意見・支援策</b></p> <p>規範意識が高いように感じる。校区内の小学校による児童への規範意識が高く、鍛えられて上がってきている。体育祭など行事の中で縦割りにしている影響が良い意味で出ている。経年変化でアンケートを見た時に、その直前でいった行事の影響がかなり反映しているので、アンケートをとるタイミングは検討の余地が有る。</p>

最終評価

<p><b>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</b></p> <p>○学校評価アンケート「よくできている」「だいたいできている」と答えている割合</p> <p>「自分には良いところがあるとおもいますか」</p> <p>1年生：70.2%、2年生：71.1%、3年生：70.5%、保護者：99%</p> <p>「学校行事・生徒会活動・部活動などに積極的に取り組み、充実感を感じていますか。」</p> <p>1年生：89.5%、2年生：87.4%、3年生：89.6%保護者：84.4%</p> <p>「人の嫌がることや悪口を言わず、困っている人を気遣うことが出来ていますか」</p> <p>1年生：生徒88.6%、2年生：89.1%、3年生：90.4%、保護者：92%</p> <p>「学校の決まりや公共のマナーを守れていますか。」</p>
---

1年生：93.0%、2年生：92.2%、3年生：92.2%、保護者：94%

「地域や社会をよりよくするために、その課題に対して何をすべきか考えていますか」

1年生：67.5%、2年生：54.7%、3年生：69.9%、保護者：57%

#### ○教育相談アンケート

年に二度（5月・10月）実施した教育相談アンケートを通して①自分自身について、②学習について ③部活・習い事について、④学級の友達について、⑤進路について、といった複数の観点から生徒自らが自己の状況を分析することができた。

自己評価

#### 分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題

○生徒の自己肯定感については、2年生は前期と比較して増加したが、1年生と3年生については減少している。

学校行事・生徒会活動・部活動への積極的な取り組みについては、全体的に高い割合を維持しているが、どの学年も前期と比較してプラスにすることができなかった。

他者への気遣いや学校の決まり、公共のマナーの遵守については、全体的に高い割合を示しているが、3年生の他者への気遣いが-4.6ポイント低下し、規範意識が少し薄れていることが気になる。

地域や社会への関心については1・2年が減少し、3年生では増加した。もっと地域を知る学習を行っていることが必要と思われる。

#### ○教育相談アンケートから

生徒自らが学校生活を振り返り、自己の状況を客観的にとらえる機会となった。また、アンケートを基に個別相談を行ったことで、生徒一人ひとりの状況に応じた指導体制の充実を図ることができた。

価値観の多様化に伴って、生徒の生活の主軸が学級や学校の枠をこえて広がるケースもみられるようになってきている。現状の教育相談は学級に基準に置かれているため、そうした多様な価値観を尊重するためにも、より包括的な取り組みへと昇華する必要があると考える。

#### 分析を踏まえた取組の改善

○自己肯定感を向上させるためには、生徒の良い行動や成果を積極的に認め、具体的には、クラス内で「失敗をしても大丈夫」「挑戦する事が大切」という意識づけが必要だと思われる。自信を持たせる活動を定期的に行うなど、生徒同士でポジティブなフィードバックを交換したりすることが有効だと考える。学校行事、生徒会活動を主体的に取り組みさせることで、自分や仲間の自己有用感も高まるであろう。

マナー遵守については、社会的な背景から校則の見直しなどを行っているため、生徒会を中心としたリーダー育成に努める。そのことにより模範となる行動を示し、他の生徒に良い影響を促したい。

地域活動への参加促進については、地域のボランティア活動やイベントに積極的に参加する機会を増やし、地域の課題について考えるディスカッションやプロジェクトを授業に取り入れるようにする。

○教育相談アンケートに関しては今後も実施し、有効に活用していきたい。内容項目については、多様な価値観に合わせて、より広い範囲の友人関係や学校・家庭・地域など、自らの生活

	<p>全般について客観的に分析する視点を持てるよう適宜、項目の再編を行い、生徒自身がこうなりたいという前向きな目標をもてる取り組みにしたい。</p> <p>現在、個別相談を行うにあたって、記名式のアンケートとして実施しているが、より本音に近い思いをくみ取るためには、学校評価やクラスマネージメント、アセスメントシート、いじめアンケート等と情報をリンクさせながら生徒の状況を総合的に捉えることで、より効果的な指導体制を図っていきたい。</p>
学校関係者評価	<p><b>学校関係者による意見・支援策</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケートを見る限り、概ね安定した学校生活が送れているように思う。</li> <li>・大人が見えていない部分もあるかもしれないので、常に声をかけていく必要はあると思う。</li> <li>・地域や社会について考える機会がないと貢献については具体的なものが出てこないのではないか。</li> </ul>

### (3)「健やかな体」の育成に向けて

<p><b>重点目標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・健康で心身ともにたくましい生徒</li> <li>・生命を守る自己判断力の育成</li> <li>・基本的な生活習慣や食生活を中心とした保健教育の充実</li> </ul>
<p><b>具体的な取組</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 毎朝担当による健康チェックを実施し、生徒の健康状態を把握するとともに、<u>健康に対する意識の啓発を図る。</u></li> <li>② <u>自己の基本的な生活習慣を見直し、食生活や睡眠時間を中心とした健康保持を意識付け、望ましい生活習慣の確立を図る。</u></li> <li>③ 毎月発行の保健室だよりや健康診断結果、そして2回の生活習慣アンケートから、健康に対する啓発を行い、保健指導の充実を図る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者啓発への活用</li> </ul> </li> <li>④ 部活動ガイドラインに則って部活動に取り組みせ、部活動の指導やキャプテン会議を通して、心身共に健康を維持増進させることの大切さを実感させる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己管理を通じた、怪我や熱中症への予防対策</li> </ul> </li> <li>⑤ 生徒の実態と、各学年の発達段階に合わせた性教育の実践を推進する。</li> <li>⑥ 健康と安全について啓発する各教室を実施する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・1年生非行防止教室 2年生防煙教室・救急救命講習会 3年生薬物乱用防止教室</li> <li>・交通事故、水難事故等の未然防止教育</li> </ul> </li> </ol>
<p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <p>○学校評価アンケート ○生活習慣アンケート</p>

### 中間評価

<p><b>各種指標結果</b></p> <p>○学校評価アンケート</p> <p>「よくできている」「だいたいできている」と答えている割合</p> <p>「食事や睡眠時間など規則正しい生活習慣が身についていますか。」</p> <p>1年生：74%、2年生：71%、3年生：77%、保護者：72%</p>
--

「携帯電話・スマートフォンやPCの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか。」

1年生：78%、2年生：84%、3年生：90%、保護者：65%

「困ったことや悩みを相談できる人はいますか。」（\*「一人以上いる」の割合）

1年生：83%、2年生：92%、3年生：90%、保護者：97%

○生活習慣アンケート（全校評価）

睡眠時間 8時間以上…17% 約8時間…28%  
約7時間～7時間半…30% 約6時間～6時間半…20%  
朝食摂取 毎日食べる…85% 食べる日のほうが多い…6%  
スマホ・PC・ゲーム等の利用時間（学習以外）  
約5時間以上…18% 約4時間～5時間…9%  
約3時間～4時間…26% 約2時間～3時間…25%  
約1時間～2時間…17%

自己評価

分析（成果と課題）

○学校評価アンケートから

身近に相談できる人が居ると答えている割合は生徒も保護者も高い。  
スマホやPCの家での約束事において、生徒と保護者に感覚の開きがある。

○生活習慣アンケートから

基本的な生活習慣は概ね身につけているようである。  
ほとんどの生徒が2～3時間程度はスマホを利用していると答えている。  
本年度は、保健室利用が減っている。睡眠不足や体調管理面での不調が目立つ。  
夏場の高温環境下でも熱中症などは少なかったが、今後も練習中の適度な休憩と水分補給、休憩時間もエアコンの利いた部屋で過ごすなどのクールダウン対策が必要である。

分析を踏まえた取組の改善

- ・朝の健康観察において、継続して生徒観察を行う。
- ・基本的な生活習慣の確立に向けて、保健だよりや保健室前掲示物で啓発活動を行う。
- ・頻回、来室生徒で気になる生徒には、継続的に話を聞き、保健指導を行う。
- ・保健委員会による食育放送を継続する。
- ・スマホ・PC・ゲーム等の利用について、情報教育を継続的にを行い、ご家庭との連携をとる必要性がある。今年度行ったPTA主催の家庭教育学級「情報モラル講座」も継続して行う。

（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標

○学校評価アンケート ○生活習慣アンケート

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

大人でもTikTokに熱中している状況が多いので、ましてや子どもに対しては難しいのでは。使用を禁止するのではなく、使用することを前提に対策を取る必要がある。

最終評価

（中間評価時に設定した）各種指標結果

○学校評価アンケート

「よくできている」「だいたいできている」と答えている割合  
 「食事や睡眠時間など規則正しい生活習慣が身についていますか。」  
 1年生：76%、2年生：72%、3年生：76%保護者：73%、  
 「携帯電話・スマートフォンやPCの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか。」  
 1年生：80%、2年生：79%、3年生：82%保護者：55%、  
 「困ったことや悩みを相談できる人はいますか。」（\*「一人以上いる」の割合）  
 1年生：86%、2年生：93%、3年生：92%保護者：96%、

○第2回生活習慣アンケート（全校評価）12月冬休み前実施

睡眠時間 8時間以上…21% 約8時間…23%  
 約7時間～7時間半…32% 約6時間～6時間半…18%  
 朝食摂取 毎日食べる…83% 食べる日のほうが多い…7%  
 スマホ・PC・ゲーム等の利用時間（学習以外）  
 約5時間以上…18% 約4時間～5時間…9%  
 約3時間～4時間…20% 約2時間～3時間…25% 約1時間～2時間…17%

自己評価

分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題

○7月・12月と生活習慣アンケートの比較

睡眠時間（8時間～8時間以上）は7月45%、12月44%と、1%減少したが、全校生徒の4割以上が睡眠時間を確保できている。朝食摂取（毎日食べる）は、7月85%、12月83%と、2%減少したが、全校生徒の8割以上が毎日朝食を食べていることが分かる。

全校評価で見ると、一見良い結果に思えるが、睡眠時間・朝食摂取率が減少した理由にも目を向け、該当生徒には生活習慣の聞き取りや個別指導を継続する必要がある。

保健室来室生徒の中には、スマホ等による遅寝・遅起き・朝食未摂取で登校し、授業中に不調をきたして来室する生徒もいる。個別に聞き取り指導継続しているが、なかなか改善が見られない生徒もいる。個別の保健指導を繰り返し行い、保健だよりや保健室前掲示物での啓発も継続して行いたい。

生徒が毎日健康に過ごせるように、学校だけではなく、必要に応じて保護者とも連携し、学校での様子・家庭での様子を共有したり、子どもへの声かけをお願いしたりなど、保護者と繋がることも大切にしたい。

分析を踏まえた取組の改善

○健康観察の活用。遅刻生徒・欠席状況・体調面等の把握と個別指導。

睡眠や朝食に特化した内容の保健だよりや保健室前掲示物での啓発活動。

生活習慣の聞き取りを行い、個別で保健指導を行う。

保健委員会による食育放送の継続。

スマホやPC、ゲーム等の正しい利用時間や方法について情報教育を継続的に行う。

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

・保護者のどれぐらいが、スマホ使用に制限をかけているのか。それを知ることで啓発につながるかもしれない。

・基本的な生活習慣が乱れないよう学校だけでなく、保護者にも生活改善の教育講座を紹介することが必要ではないか。

#### (4) 学校独自の取組

##### 重点目標

- ・向上心をもち、自律型行動ができる態度の育成
- ・多様な学習の機会・場の設定

##### 具体的な取組

- ① 松尾中版キャリアパスポートの効果的な活用
  - ・目的・目標を意識し、先を見通す力の育成
  - ・逆算をして、修正し、次の行動へ繋ぐことの習慣化
- ② 総合的な学習の改善
  - ・3年間を系統立て、キャリア教育を中心とした学習の実践
  - ・探究型を柱とした内容の構築推進
- ③ 図書館とICTの活用
  - ・教科や総合的な学習の時間等での多種多様な読書の推進
  - ・情報活用能力の推進と図書館教育との連携
- ④ 安心できる環境作り
  - ・アセスの分析を活用した教育活動の研究
  - ・個別学習に取り組む時間や場所の設定
- ⑤ 家庭・地域との連携活動
  - ・家庭教育学級等の実施（SNSへのトラブル未然防止や情報モラル教育）
  - ・保護者懇談会や学校運営協議会の活用の充実

##### (取組結果を検証する) 各種指標

○学校評価アンケート ○生徒指導の三機能チェックリスト【生活場面】 ○アセスの分析

#### 中間評価

##### 各種指標結果

###### ○学校評価アンケート

「よくできている」「だいたいできている」と答えている割合

「読書（朝読書を含む）の習慣がついていますか。」

1年生：78%、2年生：64%、3年生：78%、保護者：46%

「将来の自分の夢や目標をもっていますか。」

1年生：86%、2年生：73%、3年生：69%、保護者：72%

「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか。」

1年生：82%、2年生：75%、3年生：77%、保護者：63%

「自分がよりよくなるように考え、行動・実践していますか。」

1年生：87%、2年生：87%、3年生：88%、保護者：70%

「見通しをもって、計画的に進めたり、改善を図ったりしていますか。」

1年生：76%、2年生：70%、3年生：78%、保護者：58%

###### ○生徒指導の三機能チェックリスト【生活場面】

「よくしている」と答えている割合

学級や終学活では、各行事や一日の自らの行動を振り返る場を設けている。

教員 42%

学級の係活動や掃除分担では、自分たちで一人一役になるように考え決めさせている。教員 59%  
一人一人の生徒の「いいところ」を見つけ、その生徒に伝えている。 教員 33%

#### ○アセスの分析

分析をすることにより生徒一人一人の個別の評価ができた。

自己評価

#### 分析（成果と課題）

##### ○学校評価アンケートから

生徒の学年が上がるにつれて現実的になり、夢や目標を見失っている傾向が見られ、保護者からみても客観的にそのように見えていることを示している。

国語科を中心とした「ビブリオバトル」などの図書館活用の取り組み、図書館司書や図書委員による本の紹介（ポップの作成）による広報で、生徒への読書意識の向上が見られる。2年生の数値が低いのは、朝読書の時間に自主学習をしている生徒が増えている傾向がある。

##### ○アセスの分析から

生徒個別の評価により、どの生徒がどこにつまずきを、どこに困りをもっているか理解することができた。

#### 分析を踏まえた取組の改善

- ・学年が上がるにつれて夢や目標に対する意識が低いことから、夢や目標を持つことの重要性を強調するキャリア教育やワークショップを実施していくことが有効だと考える。保護者・地域と連携して様々な職業に接する機会を与えたり、卒業生など身近な人物による話を聞かせたりし、目標設定をサポートできる体制を整える。
- ・さまざまな図書に触れるよう情報収集の機会を教科学習と連携して行う。朝読書に取り組めるように働きかけていきたいと思う。
- ・難しい課題に挑戦する機会を増やし、成功体験を積むことで自信をつけさせたり、失敗を学びの一部として捉えさせたりし、失敗から学ぶことの重要性を理解させたい。
- ・アセスの分析を経て生徒一人一人に焦点をあてて、各教科を含めた多角的な支援方法を検討していく。
- ・アート対話などの取り組みから学習適用感も上がってきているので、学校体制で継続していく。

#### （最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標

○学校評価アンケート ○生徒指導の三機能チェックリスト【生活場面】

学校関係者評価

#### 学校関係者による意見・支援策

目標を持っている子と持っていない子が明確なので、適宜、目標を書かせ、教室内に掲示する視覚化が必要。学活等で時間を作り、月毎に行うキャリアパスポートの成果は出ている。保護者も You tube 等見ている世代なので、朝読書を子どもにさせるのは難しいかもしれないが、短い朝の10分間は集中できるので、継続してもらいたい。

#### 最終評価

#### （中間評価時に設定した）各種指標結果

##### ○学校評価アンケート

「よくできている」「だいたいできている」と答えている割合

「読書（朝読書を含む）の習慣がついていますか。」

1年生：58%、2年生：54%、3年生：68%、保護者：40%

「将来の自分の夢や目標をもっていますか。」

1年生：86%、2年生：70%、3年生：73%、保護者：72%

「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか。」

1年生：74%、2年生：72%、3年生：69%、保護者：65%

「自分がよりよくなるように考え、行動・実践していますか。」

1年生：85%、2年生：80%、3年生：85%、保護者：72%

「見通しをもって、計画的に進めたり、改善を図ったりしていますか。」

1年生：75%、2年生：66%、3年生：85%、保護者：56%

○生徒指導の三機能チェックリスト「よくしている」と答えている割合

学活や終学活では、各行事や一日の自らの行動を振り返る場を設けている。教員42.3%

学級の係活動や掃除分担では、自分たちで一人一役になるように考え決めさせている。

教員59.3%

一人一人の生徒の「いいところ」を見つけ、その生徒に伝えている。教員33.3%

○アセスの分析

各個人で指標が伸びている生徒もいれば、落ちている生徒もいた。全体的には大きな変化は見られない。

○松中版キャリアパスポート

毎月の目標と振り返りに取り組むことで、時間は短いながらも次へとつなげる

自己評価

分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題

○「いいところ」を見つけ伝えることが、昨年と比較すると3%減少しているが、「時々している」の教員回答数は44%あり、合わせて77%あり今後も教員は意識して生徒のいいところを伝えていきたい。伝える事により生徒が自分の良い点を認識し自己肯定感を高めることができると考えられる。今後も意識して実践し、生徒が自信を持って学習や活動に取り組めるようにしていかなければならない。

○アセスの分析

全体研修でアセス分析方法を学び、学年ごとに指数が低い生徒（困っている生徒）の分析をすることにより生徒一人一人の個別の評価ができた。1・2年に関しては年3回実施（予定）。分析することで、今後の授業改善や関わり強化をすることができた。来年度も同様に継続することが必要。また昨年度との比較もしながら継続して実施することが重要。

分析を踏まえた取組の改善

○失敗を恐れぬ文化の醸成を目指し、失敗を学びの一部と捉え、挑戦することの重要性を強調する。そのためには、学活や総合学習の時間での探究活動が最適であると考えられるため、3年間を見据えた学習を確立することが必要である。

○アセスの分析

今後はアセス分析にとどまらずアクションプラン作成（PDCA含む）、行動が重要である。



	○勤務時間調査    ○年休取得率
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>35人学級になる事により、教員数が増える事を期待する。教員がやらなくてよいような仕事は他ができる体制づくりを。教員が報告する文書など細かすぎるので、もう少し簡単にして、時間短縮してみてもどうか。</p>

最終評価

	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <p>○時間外勤務分析シート</p> <p>4月 48時間   5月 40時間   6月 42時間   7月 33時間   8月 15時間 9月 36時間   10月 43時間   11月 33時間   12月 33時間   1月 31時間</p> <p>冬季閉鎖期間中の年休取得は確保できている。</p>
自己評価	<p>分析(成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <p>○32名の教職員による時間外勤務の分析によると、教職員一人ひとりの意識により、各月数時間ずつではあるが、昨年度と比べ時間数は減っている。但し、教職員としての業務内容は毎年変わっていない上に、教職員の増員が無いのが現状である。</p> <p>○行事が重なる時期は超過勤務が増加することは避けようがない。</p> <p>○行事の精選や会議方法や研修の工夫にさらに手を加えていくことが必要である。</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>○働き方改革の浸透により、働き方の多様化が認められてきている。一人一人が自分自身の仕事内容を精査選別し、優先順位をつけて改善していくほかに思われる。</p> <p>○ICT機器を活用し、コミュニケーションもとりながら校務にあたるよう、改善点を見つけ出し、方策を打ち出していく。</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>・教職員が疲れてしまわないようにする必要があることは十分理解できる。大人が生き生きしていないと子供にも影響が出る。</p> <p>・やりがいをもって働けるよう協力できることには労を惜しまない。</p> <p>・教職員だけではどうしようもなく、委員会に主導してもらわないといけないこともあるだろう。</p>

(6) いじめの防止等についての取組に向けて

重点目標	<p>・いじめの未然防止、早期発見・早期解決</p>
具体的な取組	<p>「学校いじめの防止等基本方針」に同じ</p>
(取組結果を検証する) 各種指標	<p>① 全教職員が学校いじめの防止等基本方針の内容を理解し、組織的対応に努めている。</p> <p>② 学校のいじめ対策委員会のメンバーを生徒に紹介している。</p> <p>③ いじめに係る既存の「学校評価：生徒アンケート項目」を活用し、経年変化を比較し教職員が共有し、予防、見逃しのない観察、適切な対応を迅速に行う。</p>

- ④ 生徒・保護者の訴え（アンケート結果含む）や相談内容を共有している。
- ⑤ 保護者や学校運営協議会等に、学校いじめの防止等基本方針や学校の取組を説明・周知している。

中間評価

各種指標結果

○学校評価アンケート

「よくできている」「だいたいできている」と答えている割合

「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。」

1年生：97%、2年生：96%、3年生：97%、保護者：99%

「他者の考えや個性など多様性を尊重し、協働することができていますか。」

1年生：97%、2年生：93%、3年生：97%、保護者：94%

「学校では安心して、楽しく過ごさせていますか。」

1年生：84%、2年生：93%、3年生：94%、保護者：87%

○いじめアンケート

「からかわれる、悪口やいやなことを言われる」に関して、全校生徒の約6%があると答えている。

「いじめをゆるさない学級・学年集団作りができています」の項目に（教職員）に関して、肯定的な回答が90%を超えていた。

いじめ不登校対策委員会を月1回は開催し、相談内容や子どもの訴えを共有した。

\*学校運営協議会（10月）にて説明

自己評価

分析（成果と課題）

○学校評価アンケートから

ほとんどの生徒と保護者がいじめを許さないという強い意識を持っている。

ほとんどの生徒と保護者に多様性を尊重する意識が高まっていることがわかる。

学年が上がるにつれて学校生活に対する安心感と楽しさが増していることがわかる。

分析を踏まえた取組の改善

- ・学年が上がるにつれて安心感は増しているが、特に1年生に対しては、学校に慣れるために小中連携を強化した取り組みを行う必要がある。その為に、各主任会を定例化させたい。
- ・生徒同士が異なる意見や視点を共有し、協力して問題解決に取り組む機会が重要で、ディスカッションやグループワーク等の活動を意識的に多く取り入れる。アート対話のような活動を継続的に取り組み、多角的に物事をとらえ、他者の考えを尊重する姿勢を育みたい。
- ・学校が安心して過ごせる環境を作り、いじめ0ではなく、いじめはあるものと念頭に置き、学年・学校体制で初動に重点を置いて組織的に動く。
- ・学校全体で、いじめを見逃さないという意識を常にもち、全生徒が安心して過ごせる環境を作っていく。

（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標

- ① 全教職員が学校いじめの防止等基本方針の内容を理解し、組織的対応に努めている。
- ② 学校のいじめ対策委員会のメンバーを生徒に紹介している。
- ③ いじめに係る既存の「学校評価：生徒アンケート項目」を活用し、経年変化を比較し教職員が共有し、予防、見逃しのない観察、適切な対応を迅速に行う。

	<p>④ 生徒・保護者の訴え（アンケート結果含む）や相談内容を共有している。</p> <p>⑤ 保護者や学校運営協議会等に、学校いじめの防止等基本方針や学校の取組を説明・周知している。</p>
学校関係者評価	<p><b>学校関係者による意見・支援策</b></p> <p>昨年度の1年生と今年度の1年生の経年変化を見ていると安心・安全という項目で極端に数値が下がっているため、今後の変化を見逃さないように、しっかりと様子を見る必要がある。</p>

最終評価

	<p><b>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</b></p> <p>○学校評価アンケート「よくできている」「だいたいできている」と答えている割合</p> <p>「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。」</p> <p>1年生：96.5%、2年生：95.4%、3年生：97.4%、保護者：98%</p> <p>「他者の考えや個性など多様性を尊重し、協働することができますか。」</p> <p>1年生：95.6%、2年生：92.2%、3年生：94.8%、保護者：93.3%</p> <p>「学校では安心して、楽しく過ごさせていますか。」</p> <p>1年生：87.7%、2年生：89.1%、3年生：93%、保護者：90.1%</p> <p>○クラスマネージメントアンケートから</p> <p>「クラスには、人の失敗を笑ってからかう雰囲気がある」「クラスには、まわりに悪ふざけをしたり、からかったりする人がいる」と回答している生徒が全体の3割程いる。</p> <p>いじめ不登校対策委員会、教育相談委員会を月1回、生徒指導委員会、補導部会は毎週1回開催し、相談内容や子供の訴えを共有した。</p>
自己評価	<p><b>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめに対する意識のとして、生徒のほぼ全員が「いじめはどんな理由があってもいけない」と考えており、今後も家庭と学校が一体となっていじめ防止に取り組んでいかなければいけない。</li> <li>・多様性の尊重と協働の面では、前回より数ポイント下がったが、全体の数字としては高い水準をキープできており、さらに生徒間の協力や理解が深まっていることを期待する。</li> <li>・生徒の安心感と楽しさは全体的に高いが、保護者にも同様に安心感を持ってもらえるように継続して取り組んでいきたい。具体的には、生徒たちの意識や満足度やポジティブ思考が高まる取り組みを継続し、さらに良い学校環境を作り上げていくことが重要である。</li> <li>・「クラスには、人の失敗を笑ってからかう雰囲気がある」「クラスには、まわりに悪ふざけをしたり、からかったりする人がいる」と回答している生徒が全体の3割程いる事が現状なので普段の生徒の発言や行動を注視しながら少しでも雰囲気の改善をはかっていきたい。また、いじめ不登校対策委員会を中心に、学年集団、保護者などと連携しながら、いじめを見逃さない取り組みを進めていきたい。</li> </ul> <p><b>分析を踏まえた取組の改善</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめに関する意識が高いことから、これからも継続的にいじめアンケートを行い、いじめを見逃さない指導を行いたい。</li> <li>・定例の会議で共有したことを状況に応じて、教職員全体へ報告することを徹底する。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめを許さない学級・学年作りのために、教職員の人権意識のさらなる向上に努める。</li> <li>・日々の生徒の様子把握と家庭との連携を欠かさないように行う。</li> </ul>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">学校関係者評価</p>	<p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめがいけないとわかっているにもかかわらず、相手に嫌な思いをさせているかの認識が甘いところはあると思う。</li> <li>・先生方だけでは対応が難しいこともあるだろうが、保護者とも連絡を取りながら子供のために善し悪しをきちんと理解させていくことは大切だと思う。一度でわからないこともあるだろうし、時間をかけて指導していくことは続けてもらいたい。</li> </ul>